

平成29年度第1回保護司国際研修に参加して

岐阜保護観察所 保護司 木曾義尚

平成29年9月5日、6日に国連アジア極東犯罪防止研修所(アジア研)で開催される保護司国際研修への参加要請が、岐阜保護観察所からありました。この保護司国際研修は、アジア研が開催する第167回国際研修の期間中に行われるもので、第167回国際研修には、ナミビア、ブラジル、フィリピン、香港、韓国、シンガポール等、20か国以上から、組織犯罪・テロリスト等の犯罪者処遇に係わる刑事司法関係者等が参加していました。



日本からは、岐阜、佐賀、岡山、宇都宮、東京から5名の保護司が参加しました。第167回国際研修の主要課題は「組織犯罪メンバー・テロリストの更生及び社会復帰」で、私たち保護司の役割は、日本の保護司制度及び保護司の活動等について紹介することでした。

各地の保護司から「更生保護サポートセンター」、「社会を明るくする運動」、「保護観察」、「生活環境の調整」についての事例紹介、活動紹介がされました。私は、今回の研修課題が組織犯罪に係わることから、少年を暴力団の組事務所から脱退させ、社会復帰するまでの事例について紹介しました。各国の参加者は、日本の保護司がボランティアでこのような活動をしていることに驚かれ、保護司は保護観察対象者を監督するのではなく援助することを目的としていることを伝えました。研修は全て英語で行われているので、私たち日本人のために同時通訳があり、国際研修の雰囲気と、楽しさを満喫することが出来ました。

会議終了後は、アジア研の食堂で国際研修参加者とアジア研教官との夕食会があり、アジア研教官の通訳を伴い、各国の参加者と名刺交換や会話をすることができ、夕食後の懇談会では、皆さんの特技が披露され、歌ありダンスあり、やかましいほどのにぎやかな時間が経過しました(アジア研所長を筆頭に役者が多いのに驚きました)。

その晩は、アジア研の寮に宿泊し、2日目は「世界における脅威」と題し、シンガポールの口ハ



ン・グナラトナ氏の講義を聴講しました。グナラトナ氏は、アメリカの同時テロのテロリストから現在のISメンバーについての研究者で、刑務所でテロリストと面接をして更生の道に導く世界で重要な方でした。過激思想に洗脳されたテロリストの実態を話され、更生へのアプローチとして以下の7つについて講義されました。

1. イスラムのコーランが間違った解釈をされている場合は、専門家によりテロリストの解釈を正すこと、2. 教育による思想のリハビリが必

要であること, 3. 就労させること, 4. 家族, 社会文化を愛することの教育, 5. スポーツ等でのリハビリとして, リクレーションを刑務所で実施すること, 6. 心を和ませる音楽, 創造性, 文学, 愛の本等で人の心を変化させること, クリエイティブアートの必要性, 7. カウンセラーによる心理的リハビリトレーニングが必要であること。

講義を受け, テロリストを深く研究されてこられた方のお話は, 今までに聴講したことがない, 興味ある大変有意義な講演でした。私の質問にも丁寧に答えていただき, ISのメンバーと刑務所で面接されるまでには, 半年以上にわたり情報を得て, 十分な準備と知識を持って面接をされ, コミュニケーションを取られていることや, 東京オリンピックでのテロ対策等にもお答えいただきました。

このような貴重な体験は, 私の, 今後の人生では経験することができないと思われる機会でありました。このような機会を与えてくださいました, 岐阜保護観察所及びアジ研の皆様へ深く感謝申し上げます, 保護司会で, 今回得た体験を報告し, 生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。